

第25回

林忠彦賞

Tadahiko Hayashi Award

受賞記念写真展



Exhibition

TOKYO
4.15-21

YAMAGUCHI
SHUNAN
5.6-15

HOKKAIDO
HIGASHIKAWA
11.27-12.12

船尾 修
OSAMU FUNAO

フィリピン残留日本人
JAPANESE REMNANTS OF WAR IN PHILIPPINES

第25回林忠彦賞受賞作は
船尾修氏の写真集「フィリピン残留日本人」に決定しました。
(詳細は中ページへ)



林忠彦賞はこんな賞。

—社会は心を撃つ写真をさがしています—

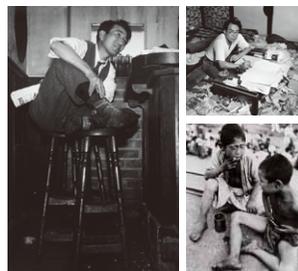
山口県周南市出身の写真家林忠彦の名を冠した「林忠彦賞」は、林忠彦が「太宰治」「坂口安吾」などの作品で戦後の写真界に颯爽と躍り出た、最もエネルギーに満ちた時代に照準を合わせ、社会が求める、その時代を一番象徴する写真を選び出そうをコンセプトとしています。1991年(平成3)故郷である周南市と周南市文化振興財団が創設、今回で25回を数えます。



林忠彦
Tadahiko Hayashi
[1918-1990]

山口県周南市出身。報道カメラマンとしてスタートし、人物写真、風景写真を撮り続けました。銀座のバー、ルパンで撮影した「太宰治」、原稿用紙に埋もれた「坂口安吾」、戦後の東京の姿をとらえた「カストリ時代」などが知られています。一方で秋山庄太郎らと二科会に写真部を創設するなどアマチュア写真家の育成にも力を注ぎ、生涯を通じて写真文化の発展に力を注ぎました。

左「太宰治」 右上「坂口安吾」
右下「煙草をくゆらす戦災孤児」(カストリ時代より)



- 選考委員
- 大石 芳野 [写真家]
 - 笠原美智子 [東京都写真美術館事業企画課長]
 - 河野 和典 [(公社)日本写真協会理事、日本カメラ社編集顧問]
 - 細江 英公 [写真家、清里フォトアートミュージアム館長・選考委員長]
 - 有田 順一 [周南市美術館館長] (敬称略・五十音順)

第25回林忠彦賞受賞作「フィリピン残留日本人」を知ろう。

第25回林忠彦賞は、108点の応募作品の中から厳正な審査の結果、船尾修さんの「フィリピン残留日本人」に決定しました。

戦前、大勢の日本人がフィリピンへ移民として渡り、フィリピン人女性と結婚、定住した。しかし第二次世界大戦中、彼らの多くは日本軍の軍属や通訳となって日本のために働いた。そのためアメリカやフィリピン人ゲリラの攻撃的となり、戦死したり日本へ戻っていく者も多かった。

戦後の強い反日感情の中、フィリピンに残された日系2世は日本人であることを隠して暮らしてきた。学校へ行けなかった人も多く、貧しい生活を送りながら戦後を生き延びてきた。1980年代頃になって漸く反日感情も薄れ、彼らは日本人と名乗れるようになったが、父親が戦死したり日本へ帰国したため日本人であることを証明するのは難しく、実際は日本人であるにも関わらず日本国籍をもたない人が大多数である。

船尾さんは2008年偶然フィリピンでこのことを知り、翌年から7回にわたってフィリピンの残留日本人(日系2世)取材、記録した。各地に暮らす彼らを訪ね、現在の境遇や暮らしぶりを直接目にし、話を聞き取りながら、ブローニー6×6のモノクロフィルムにより撮影を行った。

戦後70年となった昨年、日本ではさまざまな特集が組まれたが、フィリピン残留日本人についてはほとんど知られてない。船尾さんはこの年に写真集を出すことによって人々の目に留まり日系人の国籍回復の願いがかなえられるかもしれないと、クラウドファンディングにより資金を募ってこの写真集を出版した。残留日本人ひとりひとりと真摯に向き合い記録を重ねた取材と、それをしっかりとした写真で表現したドキュメンタリーとして、見事な作品である。

選考委員からは「戦後70年が経過した今だから成し得たとも言える、とてもインパクトの強い作品でした」「最初のページを開いてから最後まで緊張感で本当に手が震えました」「ブローニー6×6、モノクロームフィルムによる撮影で、残留日本人ひとりひとりと向き合った迫真のドキュメンタリーになっています」などの講評が寄せられました。

第25回林忠彦賞最終候補作品 [敬称略・五十音順]

- 池本喜巳「近世店屋考」
- 百々武「草葉の陰で眠る獣」
- 古見きょう「TRUK LAGOON トラック諸島 閉じ込められた記憶」
- 古賀絵里子「一山」
- 豊里友行「オキナワンプルー 抗う海と集塊の唄」
- 堀 忠三「老農 北上高地の生 40年の記録」
- 清水哲朗「New Type」
- 船尾 修「フィリピン残留日本人」
- 村上仁一「雲隠れ温泉行」



船尾 修
Osamu Funao

1960年神戸市生まれ。筑波大学生物学類卒業。登山家でもあり世界各地の山々を登攀する。1984年に初めてアフリカ大陸を訪れ、30歳代前半までに合計4年程放浪旅行する。このときの経験から写真家への道を志し「アフリカ 豊饒と混沌の大陸(全2巻)」(1998年)がデビュー作となる。その後フリーの写真家、ライターとして海外ルポなどを発表、これまでアジア・アフリカを中心に約70カ国を訪れる。2001年東京から大分県東半島へ移住。2009年写真集「カミサマホトケサマ」で第9回さがみはら写真新人奨励賞受賞。現在も民族、文化、環境をテーマに取材、撮影を続ける。

受賞記念写真展へ行ってみよう。

1 東京展 [富士フィルムフォトサロン]

4/15[金] - 21[木] 会期中無休

10:00-19:00(最終日16:00まで)

東京都港区赤坂9-7-3東京ミッドタウン
フジフィルム スクエア

TEL:03-6271-3351 <http://fujifilmsquare.jp/>

※東京フォトギャラリー連絡会の申し合わせにより、祝花は堅くお断り申し上げます。

観覧無料

2 周南展

[—林忠彦の生誕地にある—周南市美術館]

5/6[金] - 15[日] 月曜日休館

9:30-17:00 入館は16:30まで

山口県周南市花島町10-16

TEL:0834-22-8880 <http://s-bunka.jp/bihaku/>

観覧無料

船尾さん来館イベント [参加無料]

作品解説

5/6[金] 9:30からの開会式終了後(申込不要)

トークショー

「私はこうして写真家になりました」

話し手 船尾 修

聞き手 有田 順一(周南市美術館館長 林忠彦賞選考委員)

5/7[土] 10:30~

会場/周南市美術館ハイビジョンギャラリー

定員/40名(先着順)

電話でお申し込みください(0834-22-8880)

3 東川展 [写真の町 東川町文化ギャラリー]

11/27[日] - 12/12[月] 会期中無休

10:00-17:30(最終日15:00まで)

入館料/町民100円(10人以上団体80円)

町外200円(10人以上団体160円)

中学生以下無料

北海道 上川郡東川町東町1-19-8

TEL:0166-82-4700 <http://photo-town.jp/>